



園だより あそびはまなび

元気いっぱい 笑顔いっぱい みんなで鬼ごっこ！

FIKA 総合型地域スポーツクラブ代表の飯田先生が年間3回の予定で園に来られます。鬼ごっこを教わる？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、伝承遊びである鬼ごっこも、今は地域の中で異年齢の子どもたちが集まり、リーダー（ガキ大将）を中心に遊びを進めるといことが難しくなっています。鬼ごっこの面白さは体を動かすことはもちろん、頭をたくさん使うところです。周りの状況をよく見て逃げたり捕まえたりすること、助けたり助けてもらったりすること、友達と協力すること、遊びの中でたくさんの負けを経験し、次はどうしたら勝てるか考えることなどなど……。飯田先生に教えていただいた鬼ごっこ、まずは担任が「ガキ大将」になって遊びの面白さを感じられるようにしていきたいと思います。そして、ゆくゆくは子どもたちからガキ大将が育ってくれるといいですね！

11月の鬼ごっこ指導は北小学校の1年生と一緒に北小学校の体育館で行います。小学生と行うのは初の試み。小学生のお兄さん・お姉さんがリードしてくれるので、少しルールの難しい鬼ごっこに挑戦する予定です。



雨だったので、ホールでもできる鬼ごっこをしました。頭にのせたベルトを落とさないようにバランスをとり、鬼がどこにいるか確かめながら逃げています。



十字の線の上を動く鬼に捕まらないように逃げます。年少児は、朝の北チャレの時間にもクラスで楽しんでいます。



年長さんが大活躍！できることは自分たちでしよう

日差しが強くなり、入園した頃にきれいに咲いていた花もだんだん終わりに近づき、花の植え替えをすることにしました。年長児に手伝いを頼むと、自分たちのクラスの前や職員室前のプランターを一生懸命運び、花を抜き、土を空け、丁寧にプランターを洗ってくれました。花を植えこむのを手伝いしてくれた子もいます。そんな年長児を見ていた年少児も後日、ゴーヤの種まきを一緒にしてくれました。

自分たちの幼稚園、できることは自分たちで行うということはとても大切なことだと思います。生活する力も身につきます。役に立つ喜び、認められる嬉しさ等、子どもの自信にもつながっていきますね。ご家庭でも、家族の一員として、お手伝いをする機会を作っていただけたらと思います。



いろいろな手話を覚えています



出会う人をありのまま受け止められる心の柔らかい幼児期に、いろいろな人とコミュニケーションをとるための方法を知ってほしいと考え、そのひとつとして手話を保育の中に取り入れています。園では簡単な挨拶や言葉、歌詞に合わせて手話表現をする「手話ソング」などを行っています。手話に触れた経験が、のちに耳の不自由な方と出会ったときに「自らかかわろう」「相手を理解しよう」という気持ちにつながることを願っています。年少児も年長児の取組を見ているので、興味をもっているようです。2学期から少しずつ触れていきたいと思っています。

8月19日には秦野市平和の日事業「ピースキャンドルナイト」で、年長組が「With you ありがとう」の手話コーラスを市民の皆様の前で披露しました。相手を理解する＝相手と仲良くするという気持ちが子どもたちができる平和への取組ではないかと思っています。手話にも通じることですね。手話のこと、平和のこと、親子で話題にしてみてください。



牧島元デジタル大臣の教育視察の際の手話活動